日本経済新聞　平成23年10月19日

株式会社 アリス

# 戦略

## ――これで攻める

### アリス

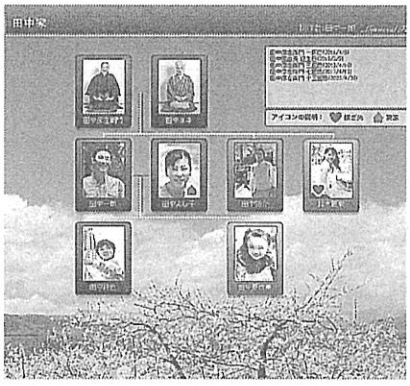
# 家族の写真100年保存

祖父母の結婚式、両親や自分の幼少期の写真は、見たいと思ったときにはどこにあるか分からないことが多い。そんな悩みに応えるサービスを、福井市の不動産会社アリス（田中敬男社長）が手がけ始めた。家族の写真を100年間という長期に保存するサービス「メモリアルファミリー（MF）」だ。家族の絆が強いといわれる福井ならではの新しい需要を掘り起こすことを狙う。

MFはウェブページ上に、同居する家族全員の写真を家系図状に配置する。顔写真をクリックすると、メンバー一人ひとりの写真を集めたページが閲覧できる仕組みだ。

1人あたり最大で120枚の写真を保存できる。個人のページには、その中に含まれる写真によって「幼少期」「学生時代」「結婚式」など、自由に名前を付けた10個までのジャンルを設けることが可能。写真だけでなく動画も別途保存できる。これによって、例えば両親の結婚式など、特定の出来事にまつわる映像を即座に見ることができる。

結婚によって別の家族と親戚になると、配偶者のページを通じて、親戚のページを閲覧できる。世代を重ねることによってつながりは一方的に増えていくため、細かいパスワードの設定により、全く縁のない人に家族のページを見られることを防げる。



個人と家族の関係が一目で分かる家系図がサービスの入り口

〈メモ〉会社員だった田中敬男氏が2010年12月、過去に不動産事業にかかわっていた経験を生かし、廃業した不動産会社「前川興産」の事業を継承。社名と定款を変更し、事業に家系図の作製と管理を加えた。不動産業では福井県北部で住宅用地や中古住宅、賃貸オフィスを手がける。従業員3人。社名変更後初めて迎えた中間決算である11年7月期の売上高は約1600万円。

現在は家庭のパソコンでも記憶媒体の低価格化と大容量化により、大量の写真を保存できる。しかし、いざ見たい時、即座に見られるとは限らない。実際、東日本大震災では住宅とともに、家族の思い出が詰まった大量の写真が紙焼き、デジタルを問わず津波に流された。MFは海外にサーバーを置くことで万が一の被害から写真を守る。

米国のフリッカーなど、写真をウェブ上で保存・共有するサービスもすでにある。ほぼ無限に写真を保存できるものも増えてきた。MFの目的は一定の期間を経た後に、思い出となる写真だけを確実に見ること。家族と関係のない写真が大量に含まれることを防ぐため、保存できる写真をあえて少なくしてある。

「長期保存が目的で、毎日見るものではないだろう」（田中社長）と考え、価格も家族全体と個人のページ作成料をそれぞれ1万円、5000円とし、維持費もかからないようにした。

アリスは現在、葬儀社を中心にMFを売り込んでいる。家族を亡くした直後は「まだ見ぬ子孫のために、写真をとっておこうという動機が強まる」（田中社長）ためだ。

MFを葬儀社の追加サービスとして売ってもらい、故人の命日や十三回忌、三十三回忌といった節目に、MFの最新情報が記載されたメールやはがきを送ってもらう。業者は顧客とのつながりを維持することができ、顧客は数十年たってもサービスを利用していることを忘れずに済む。

同社では、新たな販路として結婚式場も有望と見ている。少子化で婚姻数が減るなか、客単価を高める手段としてアピールしていく。

北陸

☎
金沢支局 076-232-3311
富山支局 076-432-4463
福井支局 0776-22-3490